

教職員による自己評価

（評価 [1：よくあてはまる 2：ややあてはまる 3：あまりあてはまらない 4：まったくあてはまらない] 肯定率 1＋2の割合の合計）

分 類	評価の観点	No、	評 価 項 目	設 問	2022年		2021年		取り組みと課題
					肯定率	評価	肯定率	評価	
学校運営	私学の独自性	1	教育目標	私は、本校の教育理念や目標、将来ビジョンを理解し、教育活動にあたっている	97%	1-53% 2-44% 3- 4% 4- 0%	99%	1-43% 2-56% 3- 1% 4- 0%	教員間で教育理念・目標を共有しながら、基本方針を立案することができている。
学校運営	私学の独自性	2	教育方針・目標	本校では、教育方針・目標が教職員、生徒、保護者に浸透している	82%↑	1-15% 2-67% 3-15% 4- 3%	72%	1- 9% 2-63% 3-24% 4- 4%	教職員が工夫を重ねながら、それぞれの学年・コースで独自の教育を展開していった成果が、数字に現れている。こうした成果を、保護者にもていねいに発信する体制を整えていく必要がある。
学校運営	私学の独自性	3	愛校心	本校の在校生・卒業生は、学校に誇りを持っている	78%↑	1-15% 2-63% 3-19% 4- 3%	66%	1- 9% 2-57% 3-29% 4- 4%	教育理念に基づいた授業や生徒主体の学校行事、教員と生徒の人間関係などをさらに良好にすることで、愛校心の醸成を図ってきたい。
学校運営	教育課程	4	コンプライアンス	本校は、教育課程は学習指導要領に沿って作成されるなど、関係法令を遵守している	95%↑	1-44% 2-51% 3- 5% 4- 0%	87%	1-38% 2-49% 3-12% 4- 1%	高校2年生以降の新しい教育課程を、学習指導要領の趣旨や私学の独自性を踏まえながら、適切に編成することができた。
学校運営	教育課程	5	年間行事計画	本校では、年間行事計画にしたがって、教育活動が行われている	95%↑	1-53% 2-42% 3- 5% 4- 0%	93%	1-43% 2-50% 3- 7% 4- 0%	海外研修を除き、おおむね年間行事計画にしたがって教育活動を進めることができた。
学校運営	教員の連携	6	会議の有効性	本校では、各種会議(職員会議・学年・分掌・教科会議など)は、情報交換と課題検討の場として有効に機能している	71%↑	1-22% 2-49% 3-26% 4- 4%	62%	1-12% 2-50% 3-25% 4-13%	次年度の海外研修の再開に向けて、着実に準備を進めていく必要がある。
学校運営	教員の連携	7	教員間の連携	本校では、教員間の年度ごと担当ごとの適切な引継ぎがなされ、相互理解や信頼関係のもと、教育活動が行われている	59%↑	1-10% 2-49% 3-37% 4- 4%	47%	1- 9% 2-38% 3-38% 4-15%	各種会議を定期的に開催し、昨年の反省をもとに教職員間の情報共有を進めながら、学校運営を円滑におこなうことができた。教員間の相互連携が進み、学校全体で効果的な教育実践を行うことができたが、まだ不十分である。一層の相互連携を図るよう工夫する。
学校運営	教員の連携	8	教員と事務職員の連携	本校では、教員と事務職員の相互理解と連携がとれており、必要な情報交換が行われている	76%↑	1-17% 2-59% 3-21% 4- 4%	66%	1-13% 2-53% 3-25% 4- 9%	ICT委員会を中心に、P Cを使用した業務の引き継ぎのほか、業務の効率化が進んだが、これらを活用できていない教員もいる。多様な研修の機会を設けることで、教職員間の相互理解や連携を深める一層の努力が必要である。
学校運営	情報公開	9	ホームページの活用	本校では、ホームページで可能な範囲の情報を公開する体制ができている	96%↑	1-46% 2-50% 3- 4% 4- 0%	93%	1-38% 2-54% 3- 6% 4- 1%	各担当によりホームページで適切な情報を公開する体制を強化した。
学校運営	情報公開	10	志願者への広報活動	本校は、志願者に対して教育活動を理解する機会を与えている	93%	1-53% 2-40% 3- 6% 4- 1%	93%	1-43% 2-50% 3- 6% 4- 1%	他校の事例も参考にしながら、SNS等の活用も含めて、情報公開・広報活動の一層の充実を図る必要がある。
学校運営	危機管理	11	役割分担・対応	本校では、非常事態に対処する役割分担が明確で、周知されており、安全対策がとられている	69%↑	1-15% 2-54% 3-26% 4- 5%	66%	1-12% 2-54% 3-29% 4- 4%	防火防災のための危機管理体制は整備されたが、多様な危機を想定した管理体制の整備と実践的活用訓練が急がれる。
学校運営	情報管理	12	個人情報	本校では、個人情報の管理について配慮がなされている	87%↑	1-37% 2-50% 3-12% 4- 1%	84%	1-28% 2-56% 3-16% 4- 0%	法令に基づき個人情報を適切に管理できているが、学校が多様な情報を扱う場であることを常に意識しながら、教育活動を進めていかなければならない。
教育活動	学習指導	13	授業規律	私は、授業規律の改善に努めている	100%	1-60% 2-40% 3- 0% 4- 0%	100%	1-57% 2-43% 3- 0% 4- 0%	年2回実施している授業評価アンケートを活用しながら、教員が高い意識をもって授業の改善に取り組むことで、授業規律がしっかりと維持できている。
教育活動	学習指導	14	教科指導	私は、指導計画案に沿った学習計画を生徒に示し、ほぼそれに沿った進度で教科指導ができている	95%	1-37% 2-58% 3- 5% 4- 0%	97%	1-35% 2-62% 3- 3% 4- 0%	新しい学習指導要領に沿ってシラバスを作成し、シラバスに即した授業を展開することができている。さらなる授業改善をめざし、授業評価アンケートなどをもとに、生徒の到達度をふまえながら、シラバスを更新していく必要がある。
教育活動	学習指導	15	家庭学習	私は、宿題や課題を適切に出すなどして、生徒の家庭での学習（予習・復習）習慣の定着をはかっている	93%↑	1-31% 2-62% 3- 8% 4- 0%	85%	1-31% 2-54% 3-15% 4- 0%	ICT委員会を中心にChromebookやノートPCを使った授業等の研究が一層進み、対話的で深い学びを意識した双方向の授業も展開されている。また教員間の研修をもとに、プロジェクターを活用して、
教育活動	学習指導	16	ICT活用	私は、ICTを活用して、生徒が興味を持ち、授業内容の理解を深めるなど授業が効果的に行えるよう工夫している	87%↑	1-26% 2-62% 3-13% 4- 0%	79%	1-19% 2-60% 3-19% 4- 1%	昨年以上に多くの教員が生徒の興味・関心を喚起する授業実践に取り組んだ。引き続きICTの研修を進めていく。
教育活動	学習指導	17	学習フォロー	私は、到達度の低い生徒に対する学習フォローに努め、意欲や関心を高める等、生徒の学習状況の改善に努めている	94%	1-32% 2-62% 3- 6% 4- 0%	93%	1-19% 2-74% 3- 7% 4- 0%	習熟度別の補習を取り入れながら、生徒の学習状況の改善を図った。ICTの活用等により、さらに個別指導の取り組みを強化していく必要がある。
教育活動	進路指導	18	生徒理解と保護者との連携	私は、生徒の学習状況・課題や進路目標を把握するとともに、生徒の状況について保護者と共通認識をもっている	91%↑	1-26% 2-65% 3- 9% 4- 0%	88%	1-24% 2-64% 3-12% 4- 0%	進路アンケートだけでなく、担任が面談等の機会を通じて生徒一人一人の進路希望を把握し、三者面談の場を通じて保護者と生徒の希望を概ね共有できた。
教育活動	進路指導	19	進路情報の蓄積と活用	本校では、生徒が適性に応じて進路選択できるように、必要な情報を提供したり、大学との交流などを行っている	94%	1-32% 2-62% 3- 6% 4- 0%	95%	1-32% 2-63% 3- 3% 4- 1%	国公立大学の推薦入試プロジェクトを多くの教員で組織し、またそれぞれの進路目標にあった補習の一層の充実に努めたことで、国公立・私立大学に多くの合格者を輩出することができた。
教育活動	進路指導	20	キャリア教育	本校では、将来の職業についても興味関心を持てるように、学年に応じたキャリア教育を行っている	93%↑	1-40% 2-53% 3- 8% 4- 0%	87%	1-38% 2-49% 3-12% 4- 1%	国公立大学の合格者のさらなる増加をめざし、補習・補講に加えて、放課後学習会や校内予備校などの取り組みを強化し、参加者を増やしていく必要がある。また総合的学習の時間、総合的探究の時間での取り組みを進路意識の向上や、進路実現につながる取り組みとなるよう、一層工夫する必要がある。
教育活動	進路指導	21	個別指導	本校では、生徒の成績情報の蓄積と学習課題の分析に努め、それぞれの生徒に応じた適切な進路指導を行っている	90%↑	1-35% 2-55% 3-10% 4- 0%	88%	1-32% 2-56% 3-10% 4- 1%	
教育活動	生徒指導	22	指導方針の一貫性	私は、本校の生活指導の基本方針を理解し、生徒の人格をも尊重しつつ生徒指導にあたっている	98%↑	1-53% 2-46% 3- 2% 4- 0%	96%	1-41% 2-54% 3- 4% 4- 0%	問題行動を未然に防ぐため、生徒の人権に配慮しながら、校訓にもとづく日常の生活指導の徹底を図ることができており、生徒の違法意識も年々高まっている。
教育活動	生徒指導	23	家庭との連携指導	私は、生徒指導にあたっては、常に家庭と綿密な連絡を取り、その指導にあたっている	93%	1-47% 2-46% 3- 6% 4- 0%	97%	1-44% 2-53% 3- 3% 4- 0%	すべての学年で情報モラル講座を開催し、情報倫理の育成に努めた。またネット上のトラブルを未然に防止するため、ネットパトロールと連携しながら生徒指導を進め、問題行動やトラブルが発覚した場合も、迅速に対応できた。
教育活動	生徒指導	24	問題行動の防止・服装指導	私は、問題行動を未然に防ぐ教育や、服装・頭髮指導を適切に行い、快適な学習環境と規律ある校風の確立に努めている	98%	1-51% 2-46% 3- 1% 4- 1%	99%	1-44% 2-54% 3- 1% 4- 0%	日常の生活指導に加えて、作法指導や総合的な探究の時間での活動を通じて、生徒のマナーの向上に積極的に取り組んでいく必要がある。
教育活動	生徒指導	25	挨拶・マナー指導	私は、生徒に挨拶の大切さを教え、基本的生活習慣の定着とマナーの向上に積極的に努めている。	96%	1-50% 2-46% 3- 4% 4- 0%	97%	1-51% 2-46% 3- 3% 4- 0%	
教育活動	国際理解教育	26	国際理解教育への取り組み	本校では、グローバル化に対応した教育や行事を実践している	77%	1-19% 2-58% 3-21% 4- 1%	82%	1-22% 2-60% 3-15% 4- 3%	オンラインでの代替行事は実施できた。
教育活動	人権教育	27	人権教育への取り組み	本校では、いじめ、人権侵害や差別意識の助長を許さない教育が行われ、生徒の人格が尊重されている	92%↑	1-45% 2-47% 3- 8% 4- 0%	87%	1-40% 2-47% 3-10% 4- 3%	コロナが収束に向かうなかで、次年度の海外語学研修の再開に向けての準備を進めるとともに、さらなる発展的プランも考えていきたい。
教育活動	防災教育	28	防災・安全意識	本校では、避難訓練を行うなどして、生徒・教職員の防災・安全意識を高めている	91%	1-47% 2-44% 3- 8% 4- 1%	94%	1-43% 2-51% 3- 4% 4- 1%	学校における多様性の確保をめざし、教員研修を実施するとともに、生徒の人権を重んじながら、校則や校内ルールの見直しを進めた
教育活動	健康教育	29	心のケア	本校では、不登校生の生徒や生徒の抱える心理的問題に対して、その実情をつかみ必要な対応がなされている	85%	1-40% 2-45% 3-10% 4- 0%	88%	1-43% 2-46% 3-10% 4- 1%	年2回の避難訓練を実施したほか、高校2年生全体の修学旅行に震災・防災学習を導入するなど、防災意識の向上を図った。
教育活動	健康教育	30	保健・健康指導	本校では、生徒の健康状態を把握し、必要な健康指導を行うなど、生徒が健全な学校生活が送れるよう努めている	85%	1-40% 2-45% 3-10% 4- 5%	91%	1-46% 2-46% 3- 7% 4- 1%	学校カウンセラーとの連携を図りながら、生徒の抱える心理的問題の解決に向けて、学校組織全体で取り組んでいった。
教育活動	特別活動	31	生徒会活動支援状況	本校では、生徒会活動が生徒の主体的活動として発展するよう支援している	76%	1-27% 2-49% 3-23% 4- 1%	78%	1-22% 2-56% 3-18% 4- 4%	生徒の健康状態を把握するための健康チェックを継続的に実施してきたが、コロナが収束に向かうにつれて、取り組みが緩んでいる。今後は対面での生徒の健康観察に力を注いでいきたい。
教育活動	特別活動	32	クラブ活動支援状況	本校では、クラブ活動の役割を重視し、生徒が参加・活動できるように努め、学校で決めたガイドラインに沿って活動している	79%	1-35% 2-44% 3-19% 4- 3%	87%	1-35% 2-52% 3-12% 4- 1%	文化祭・体育祭などの行事を生徒会を中心に生徒主体で運営することができた。今後は計画段階から、教員の適切な指導のもと生徒主体で進めることができるよう準備し、さらに生徒が主体的に活動できるようにしていく必要がある。
教育活動	特別活動	33	学校行事	本校では、それぞれの学校行事を年間教育計画の中に位置づけ、生徒が積極的に参加できるように指導している。	82%	1-35% 2-47% 3-17% 4- 1%	88%	1-29% 2-59% 3-10% 4- 1%	本年も多くのクラブ活動が全国大会に出場し、また地域活性部が全国レベルの表彰を受けるなど、大きな成果を収めた。
教育活動	特別活動	34	考える学びと社会貢献	本校では、「考えるを、学ぶ。」学校として工夫された行事を通して、社会に貢献できる人財の育成につとめている。	79%	1-29% 2-50% 3-18% 4- 3%	84%	1-26% 2-57% 3-13% 4- 3%	クラブ活動のガイドラインに沿った活動ができているのかを検証する必要がある。

分 類	評価の観点	No、	評 価 項 目	設 問	2022年		2021年		取り組みと課題
					肯定率	評価	肯定率	評価	
その他	教員研修	35	授業改善	私は、教員同士の授業相互見学に参加するなど、授業力アップに積極的に努めている。	77%	1-24% 2-53% 3-23% 4- 3%	76%	1-19% 2-57% 3-21% 4- 3%	定期的に研究授業を実施したり、オンラインでの教員研修を日常的に進めることで、教員個々の授業力の向上を図った。
その他	教員研修	36	校内研修	本校では、校内研修やそれぞれの場面でのOJT(On the job training)を実施し、教育力向上に努めている。	74%↑	1-15% 2-59% 3-26% 4- 0%	69%	1-16% 2-53% 3-24% 4- 7%	教員の研修時間を確保するための時間割編成についての研究を進め、可能なところから実施した。次年度は授業公開日をふやすなど、教員の授業力のさらなる向上に努めたい。
その他	保護者との連携	37	育友会活動	本校では、育友会活動が盛んで、保護者の学校教育への理解と協力が進んでいる。	73%↑	1-18% 2-53% 3-24% 4- 5%	65%	1-10% 2-54% 3-34% 4- 1%	本年もコロナ禍で育友会行事を計画通りに進めることはできなかったが、役員を中心に育友会全体で教育活動へ十分な協力をいただくことができた。
その他	保護者との連携	38	保護者への公開	本校では、保護者などへの授業や行事が公開されている。	80%↑	1-33% 2-46% 3-19% 4- 1%	71%	1-24% 2-47% 3-25% 4- 4%	これまで中学校で実施してきた授業公開日を学校全体に拡大し、次年度は学年ごとに学期に1回の授業公開日を設けていく。
その他	設備施設	39	施設管理	本校では、施設設備については、日常的に点検・補修を行い、適切に管理している。	80%	1-36% 2-45% 3-17% 4- 3%	84%	1-29% 2-54% 3-15% 4- 1%	第二体育館の屋根の工事など、法令に沿った施設設備の維持・管理を進めた。また野球場における室内練習場の建設などを通じて教育活動の充実を図った。
その他	設備施設	40	学習環境・美化	本校では、生徒に清掃、校内美化に取り組ませ、施設設備を大切にする心を養っている。	80%	1-27% 2-53% 3-17% 4- 4%	79%	1-24% 2-56% 3-19% 4- 1%	生徒による清掃活動をさらに徹底することで、施設設備を一層大切にする心を育成したい。

教職員の自己評価に対する第三者評価(学外委員からの評価および提言)

①自己評価全般について

- ・PDCA のマネジメントサイクルに基づく学校運営が着実になされていることを実感した。また校務分掌における成果と課題も整理されている。
- ・この一年もコロナ禍の下で、学校運営や教育活動において様々な制限や変更・中止等を余儀なくされる場面があったかと思うが、学校目標の達成に向けて積極的に取り組んでいることに敬意を表したい。
- ・アンケート調査の数字結果を丁寧に検証し、プラス評価の高かった項目についてはこれに満足することなく、また低い項目についても、学校管理職だけでなく、一人一人の教職員が自らの課題として認識し、生徒や保護者、また地域から信頼される魅力ある学校として引き続き発展をしていくことを強く望む。

②教育方針・目標について

- ・学年によって指導方針がバラバラのように感じる。継続的な学校の発展のためにも、指導方針の統一を図るべきである。
- ・各学年や教職員一人一人の意識・指導方法に違いがあっても当然だが、学年集団や教科指導がバラバラと生徒に受け取られないような工夫が必要である。そのためにも校内研修や実践的指導力に向上にさらに努めてもらいたい。

③年間授業計画について

- ・自己評価に比べて、年度当初の年間計画に対する教員一人ひとりの仕事に対する意識が低い。もう一度、教員になったときの原点に戻って、常に PDCA を確認し、全ての業務に対して徹底して行動してほしい。

④進路指導について

- ・進路指導体制については、学年主導ではなく、進路指導主導に切り替えて、持続可能な体制に転換するべきだと思う。進路指導部主導で、新たな東洋ブランドの構築を願っている。
- ・進学実績等において所期の成果が得られなかったことは、学校として組織的に取り組むことの必要性や教職員のモチベーション・力量を一層高める必要性を感じる
- ・持続的に発展する学校であるためには、大学進学を目指した短期的な視点だけではなく将来において社会で活躍する人材の育成を目指した教育をベースとした教育理念を持ちその理念に従った方針と体系にする必要があると思う。なかでも、現代社会で必要なデジタル教育は、これからの社会で活躍する人材の育成手段としては必須であると思うので、早急に取り組んでいただきたい。

⑤生徒指導について

・学校事故やいじめ等は、その軽重は別にして必ず起こるものであるとの認識に立って平素から未然防止に向けた取り組みや危機発生時の対応能力の向上に努めておくことが重要である。

・不登校生徒への対応にも一人一人に寄り添った配慮や指導がなされているが、各学年における相談体制の一層の充実に努めていただきたい。